

旭陵関西

発行人
旭陵同窓会関西支部長
安野 洋一
印刷 株式会社 榊えいしん社
TEL. 06-6632-7101

19年度 旭陵同窓会関西支部総会を迎えて



旭陵同窓会関西支部長
安野 洋一
(33期)

本年度で十四回目を迎える旭陵同窓会関西支部総会は発足以来順調な歩みを経て、毎年開催される総会のほか親睦・交流行事として年二回のゴルフ大会とハイキング、年一回の日帰り旅行が定着してきました。総会では、旭陵同窓会本部から西高の校長先生、同窓会幹事長のご出席を戴き、アトラクションとして下関にゆかりのある演奏家または文化人をお招きしてのすばらしい演奏や有意義な講演が恒例になっています。今年も、貞末俊裕校長、前田日出三会長、藤本正三幹事長のほか西高時代の恩師友永次郎先生がご出席される予定で、アトラクションには西高五十九期生のジャズピアニスト大石学氏に来ていただくことになりました。現在、氏は東京都内での定期的なライブや年間三十箇所を超えるツアーなどでピアノファンを魅了し、「より自由で深い音楽を追求する」目標を掲げて活動しておられると聞いています。そのために今年はお初天神近くのリブハウスに移し、生演奏を楽しんでもらう趣向といたしました。是非とも多数の方々のご参加を願っています。さて、故郷下関を選挙基盤とす

る安倍晋三総理が誕生して丸八ヶ月になろうとしています。公約の憲法改正、教育改革の実現にむけて成果が現れつつあり、支持率も再浮上してきたことはよろこばしいかぎりです。是非頑張りつづけてほしいものです。昨年に高校卒業後五十年、古希を迎えた旭陵同窓生と入学時西高生であった翠が丘同窓生あわせて百五十名以上が一堂に会し、大いに盛り上がりました。また集まるうの声が多かったのですが、一年近く準備してくれた幹事の皆さんの苦労は大変で、残念ながら今のところ再開のめどは立っていません。翌日十人ばかりで西高を訪れ、天下第一関を背景にして記念写真を撮り、新しい体育館と舞台の緞帳を見ました。昨年は、緞帳の購入にあたりご寄付いただいた旭陵関西支部同窓生の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。



旭陵同窓会会長
前田 日出三
(31期)

ご挨拶
平成十九年度旭陵同窓会関西支部総会が盛大に開催されます。心からお慶び申し上げます。また、総会にお招き戴き光栄に存じます。関西支部総会では毎回、各分野で活躍の方のご講演を拝聴するこ

先日、新聞か何かの記事で目にしたのですが、「同窓会にはもう行きたくない。家族の自慢や仕事の話ばかりでおもしろくない。故郷で同じ時代を過ごした話題を中心に集まるべきではないか」と述べられていました。最近、同窓会の目的や意義について考えることもなく考えていたことから興味深く読みました。しかし、目的は何であれ、すべてが集まることから始まるのではないのでしょうか。久しぶりに友と会うこと、母校の近況級友の消息、下関の様子を知るなどさまざまであつてよいのでないでしょうか。昨年は久しぶりに百名を超える参加者でも盛況でした。今年はその以上と期待して多数のご参加をお待ちしています。



山口県立下関西高等学校長
貞末 俊裕

平成十九年度旭陵同窓会関西支部総会が盛大に開催されます。心からお祝い申し上げます。同窓生の皆様方には平素から本校教育の充実発展に格段の御指導

とが出来ます。今から楽しみにしております。昨年、母校に新体育館が無事落成いたしました。出費多端の折大変ご迷惑とは存じましたが、皆様にお陰様で目標額を達成され立派な緞帳と暗幕を寄贈することができました。ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。早速、昨年十月二十日、文化庁のご都合により、新体育館に於いて本物の舞台芸術体験事業の一環として音楽劇シユーベルトの青春

・御支援を賜っており厚くお礼申し上げます。特に、平成十七年四月には部活動用のマイクロスコープを更に昨年九月には新体育館完成に併せ立派な緞帳と暗幕を御寄贈頂き、毎年のように格別の御支援を賜り熱く御礼申し上げます。体育館竣工を記念して昨年十月にオペレッタを公演し、本物の舞台芸術を鑑賞することができました。また、新体育館で初めての卒業式を三月に挙行し、新たに二百五十一人が同窓会の仲間入りをし、全国各地で活躍を始めています。本年産全日制七百九十九人、定時制五十一人で、勉学や部活動に順調にスタートしております。皆様方のお陰で教育環境は格段に整備することができました。今後は恵まれた教育環境を最大限に活用するため、自主自立の校風を引継ぎ、あらためて校是『天下第一関』のもと「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」をベースに据えつつ、「生徒一人ひとりの進路実現」を目標に、全教職員で協働して推進することとしています。今後とも本校教育の充実発展に御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げます。旭陵同窓会関西支部の益々の御発展並びに会員の皆様の御健勝をお祈りします。

が上演されました。また、今年の卒業式に出席させていただきましたが、開式と共に、緞帳が厳かに滑らかに揚がるのを見て胸が熱くなるのを覚え感激いたしました。このことは全て皆様のご厚情の賜物と厚く厚くお礼申し上げます。今年の卒業生から、各支部の連絡先を教えることになりました。支部の皆様新同窓生のこと、よろしくお願ひ申し上げます。終わりに、関西支部の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

関高 平成19年度 旭陵同窓会関西支部総会案内

- 日 時：平成19年9月2日(日)10:30～15:00
- 場 所：amホール (アムホール) (お初天神通) 大阪市北区曾根崎2-14-17Cビル4F ☎06-6362-2001
- 来 賓：前田同窓会長、本部役員、貞末西高校長、友永先生
- 会 費：8,000円 (家族3千円)
- 式次第：10:30～11:00 総会
11:00～12:30

特別演奏
大石 学氏 (ジャズピアニスト)
下関西高59期生
12:40～15:00 懇親会



【公式ホームページ】 <http://www.kyokuryo.net/~akao1/ohshi/ohshi.html>

大石 学 (ジャズピアニスト) キーボード奏者、作曲・編曲者
一九六三年横浜生まれ。下関西高/ヤマハ・ネム音楽院卒業、プロとしての活動を開始。これまでに松山千春、野島美登里、日野元彦、伊藤君子、シンガーレックス、他多数のジャズ・ポップスのミュージシャンのレコーディング/ライブに参加する一方で、二〇〇一年ソールアルバム『Oh! Love』リリース。二〇〇二年からは自ら率いる大石トリオとしてこれまで七枚のアルバムを発売。国内屈指のピアノトリオとして高い評価を得ている。演奏活動に加え、楽曲の提供・アレンジもこなし、映画監督・脚本家の三谷幸喜氏の作品の音楽を担当した(舞台・12人の優しい日本人)、映画『有頂天ホテル』他、TVC、ドラマ等の音楽も数多く手掛けている。
最近では本年四月七日オンエアのフジTV系「ミュージックフェア」にて今井美樹の新曲『September』のアレンジ及びピアノ演奏で出演。また5月9日発売の松山千春の新作ミニアルバム『自壊』にアレンジ・キーボードで参加。

※同窓生をお誘い合わせの上是非ご出席下さい。(ご家族の参加も歓迎)
※つり銭のいらないようご準備下さい。
※なお、同封葉書にて出欠の連絡を7月31日までにお願いします。
(欠席の場合も名簿整理上必ず返信をお願いします。無回答はやめましょう。)
※回答後、出欠等の変更がある場合は、事務局まで必ず連絡して下さい。

軽装・ノーネクタイで
ご出席下さい

平成十八年度総会の状況

下関への郷愁と母校への愛情

当番幹事 福山康洋（五十二期）



私は高校時代、あまり真面目な生徒ではありませんでした。問題集中心の授業に何やら反発をして部室にもつて授業をさぼったこともありますし、東駅の駅前の喫茶店から正面の女子高の生徒が下校する姿を友人と眺めたりしておりました。愛校心もあまりなく卒業してしまいました。

会社に入ると「先輩は選べるが後輩は選べない」とこぼす西高出身の上司に出会い、毎晩のように酒席につき合われ、終電の間に合わなくなると上司の家に泊まるという生活をしておりました。関西に転勤になり、その上司とも別れ、ほっとして仕事をしていた時のある日、同期だという大野さんより同窓会の誘いを受け、断るよい理由を思いつかず出席してから早4年。平成18年度総会では当番幹事が回って来ました。といっても大野さんにおんぶにだっこ彼の中学時代の友人である「チルソク」の夏」の佐々部清監督に講演をお願いすることができ、諸先輩の尽力で同窓の俳優三坂知絵子氏多数の学生会員の参加と他人のふんどしばかりながら、盛会であったと自画自賛した次第です。

ようやく桜も咲き始め、今の3年生も卒業してしまいました。この旭陵同窓会関西支部にもまた新たな会員が増えたと思うと、とても暖かな気持ちになります。私は第七八期卒業生ですが、同窓会の参加は今回が初めてでした。同窓会については、卒業式の際に少し耳にしたのを覚えているだけで、実際どのような活動をしているのかも全く知ることがなく、今思うとすごく勿体無いことをしたと反省しております。



山内麻裕 (78期)

初めて総会に出席して

作詞家秋元康氏をして「下関は映画文化の匂いがする」と言わしめるほどになりました。下関をロケにした作品は同郷の佐々部監督にとどまらず、奥田瑛二監督の「風の外側」も公開が予定されています。佐々部監督の講演でロケ地の数々に話が及んだ時、私の頭の中

にその懐かしい原風景が広がりました。

同窓会はそのような原風景を共有しながらの異業種交流のような雰囲気毎回勉強させて頂いています。そして諸先輩の愛校心の強さには自省します。日本一多作を誇った官能小説家の先輩でさえ自作を全て母校へ寄贈する母校愛。私も下関への郷愁と母校への愛情を強くしつづけています。

今後も旭陵会関西支部が盛会となり、天下第一関の伝統がここ関西にも力強く脈づいていけるよう皆様と共に歩みたいと意を強くしている今日この頃です。

う部分も有りましたが、いざ参加してみると、諸先輩方は大変暖かく迎えてくださり、楽しいひとときを過ごすことができました。時期は違えど、同じ校舎で学んだもの同士のつながりの深さを、身を

関西支部総会に出席して参加者の層の多様さ実感



福田強 (32期)

昨年関西支部総会にお招き頂き楽しく有意義な一日を過ごせましたことを御礼申し上げます。

関西支部はゴルフコンペや歴史探訪のハイキングなど企画されていることを参加してみても初めて知り、また総会の後に講演会を毎年開いておられるようで、ただ集まって親睦を図るだけでなく、文化教養の高揚をはかることを強く印象付けられました。

昨年は縁あって東京と関西の支部総会に招かれて、どちらも参加者の層の多様さを感じました。本

もって感じる事ができたと思います。

また、今回は若く素晴らしいパワーのある大学生の皆様も参加してくださり、大変エネルギーシユな会でした。

今回の同窓会が終わった後も、何名かの先輩方とはお食事や新年会等にお誘いいただき、現在も交流を深めさせていただいております。

また、つい先日東京の後輩より、旭陵同窓会関東支部の集まりに参加したとの連絡がありました。若い方の参加も多く、とても活気に満ちた会であったようです。

私ももう胸を張って若いといえる年ではなくなりましたが、同級生含め積極的な参加を呼びかけ、今後もこの旭陵同窓会を大いに盛り上げていきたいと思っております。

部の総会もこれらの良いところを参考にすれば良いと思います。

当日の公演は映画監督の佐々部清氏で映画作りの裏話や、私が第一高校時代を知っている俳優の松田優作君の話など興味深く拝聴いたしました。映画の話に関して「一生懸命の人は誰かが見ている。さぼっている人は全員が見ている。」という言葉が私には印象深く、今でも思い出します。昨年から豊浦高校で非常勤講師として努めていきますので、授業中に豊浦高の先輩の言葉として時々話していきます。

佐々部監督の「出口のない海」を映画で見て感動しました。しかし、気になったところがあります。それは子供の頃から一緒に育った私の義兄が終戦のため回天での出撃がなくなり帰って来ませんでした。そのとき隊長より母に宛てた手紙を見て「一人息子は回天の乗務員に

はなれない。」と言っていました。映画では一人息子が主人公でした。このときの手紙もすでになく、義兄もすでに死亡して確認するすべがありません。本当はどうなのか知りたくありません。

関西支部総会年譜

- ▼一九九四年 第一回 太閤園
- ▼一九九五年 第二回 天王寺ホテル
- ▼一九九六年 第三回 弥生会館
- ▼一九九七年 第四回 三井アーバンホテル
- ▼一九九八年 第五回 三井アーバンホテル
- ▼一九九九年 第六回 三井アーバンホテル
- ▼二〇〇〇年 第七回 三井アーバンホテル
- ▼二〇〇一年 第八回 三井アーバンホテル
- ▼二〇〇二年 第九回 三井アーバンホテル
- ▼二〇〇三年 第十回 弥生会館
- ▼二〇〇四年 第十一回 弥生会館
- ▼二〇〇五年 第十二回 弥生会館
- ▼二〇〇六年 第十三回 弥生会館

医療法人 祐生会

みどりヶ丘病院

(医療機能評価認定病院)

診療科目：内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、
脳神経外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、
理学診療科、麻酔科、放射線科、人間ドッグ

ベッド数：329床

理事長 甲斐敏晴 (31期)

〒569-1121 ☎072-681-5717(代)

高槻市真上町3丁目13番1号

みどりヶ丘介護老人保健施設

グループホーム みどりヶ丘荘

ベッド数：入所107床・通所50名

理事長 甲斐敏晴 (31期)

〒569-1041 ☎072-692-3111(代)

高槻市奈佐原4丁目7番1号



幹事期
52期 大野さん開会宣言

平成18年度 第13回総会

於：大阪弥生会館
平成18年8月27日(日)



安野支部長 活動報告



本部 前田会長 御礼と挨拶
「緞帳作成に当たり協力感謝しています!!」



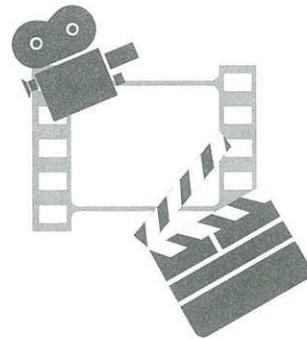
佐々部清監督 講演
「映画が人を作り、人が映画を作る」
映画づくりの苦労話、裏話で盛り上がりました。
チルソクの夏、半落ちに続く新作
「出口のない海」で勝負をかけます!



関西で在学中の同窓生
社会人の先輩との交流を楽しみに
してきました。



参加者一同



佐々部監督を囲んで記念撮影
大先輩も緊張した顔つきで……



佐々部監督、三坂さんを囲んで記念撮影
「ハイ、ポーズ!」



天下第一関の前で集合写真(大先輩一同)



天下第一関の前で集合写真(中堅先輩一同)



天下第一関の前で集合写真(若手先輩一同)

社会福祉法人 みどりヶ丘会

理事長 甲斐敏晴 (31期)

グリーン特別養護老人ホーム

入所70名

〒569-1041 高槻市奈佐原4丁目7番15号
☎072-690-3331

グリーンケアハウス

入所50人

〒569-1041 高槻市奈佐原4丁目7番3号
☎072-690-3561

支部行事報告

ハイキング

第十回旭陵ハイキング
雨中の世界遺産散策



戸村順子(左)
戸渡辺幸枝(右)
(33期)

数日来続いていた行楽日和はどこに行ったのか。第十回旭陵ハイキング当日の十一月十九日は曇り後雨時々どしゃ降りのあいにくの空模様となりました。

朝十時、JR法隆寺駅に集合し点呼・行程の説明の後、旭陵会の紫色の旗を持つ幹事さんを先頭に総勢二十八名は足取りも軽くいざ出発です。最初の目的地である上宮遺跡公園に到着、紅葉はいまいち。次の中宮寺跡はこんもりとした小さな竹藪があつただけの原っぱ。古代のロマンに浸っている時、幹事の山田さんがこやかに笑いな

がら来られて、ひどいお言葉。「お二人にハイキングの感想文をお願いします。」「えっ！何ですって！」遠足気分も吹っ飛び、意気消沈のあまりに雨まで降り出しました。気を取り直して次に進みます。県道奈良斑鳩線を法隆寺まで北上するハイキングコース。今回一番歩く距離が長い所です。見所の一つであるコスモス畑も種のみ残して雨の中でふるえています。右手に法起寺、左手に法輪寺の美しい三重の塔を見ながら雨の中の行進。それぞれの寺で由来とか、仏像の説明を拝聴しました。外にでると雨足が強くなつていながら、法隆寺門前の松本屋に着きました。全員落ち着いた所で

まずはビールで乾杯！各自持参の弁当で、にぎやかに昼食会が始まりました。本日の一番の盛り上がりです。あつという間に一時間が過ぎ、いよいよ世界遺産法隆寺へ。四班に分かれて、ボランテアガイドの案内で西院伽藍、大宝蔵院東院伽藍と広い境内を駆けめぐります。飛鳥時代を始めとする各時代の粋を集めた建造物が軒を連ね、たくさんの宝物類が展示されてい

第十二回旭陵ハイキング
やっぱり雨は降りました…



益村裕三
(37期)

京阪八幡市駅に小野先輩(二十九期)、米田先輩(三十期)を筆頭に参加者(三十四名)全員が遅刻することなく午前十時前に集合。早速、男山ケーブルカーに乗って石清水八幡宮に参詣する事になった。

この石清水八幡宮は応神天皇、神功皇后、比咩大神を祭神として、清和天皇が即位した翌年の貞観元年(八五九年)に創建され、伊勢神宮に次ぐ国家第二の宗廟として歴史的にも、政治的にも重要な位置を占めてきたと言われています。「石清水」の名は今なお男山中腹に湧き出る霊水「石清水」にちなんでいるとの事。京の都の裏鬼門に位置し、源氏をはじめ全国の武士が武・弓矢の神として崇敬してきたとの事です。なお、現在の社殿は徳川家光公によって造営されたものだそうです。この境内には、昭和九年に発明王エジソンが「八幡」の竹をフイ

ます。さすが日本が世界に誇る文化遺産です。四時三十分法隆寺の散策を終え、門前で解散。駅に着く頃にやつと西の空も明るくなり天気回復。天気には恵まれませんでした。多くの旭陵同窓生の先輩・後輩と過ごす楽しい一日でした。次も参加するぞ！参加された皆様お疲れさまでした。わたしたちも今回、初めて参加しましたが、まだ参加されていない方々、是非一度参加してみてください。旭陵同窓生(先輩・後輩)との楽しい一日が過ごせると思いますよ。

ラーメンとして電球を発明して五十周年を記念して建造されたエジソン記念碑があります。私たちが見たのは昭和五十九年に再建されたものです。無事参詣を終え、ケーブルカーで下山し、目指すは背割り堤へ。木津川と宇治川にかかる御幸橋をゆっくりと歩いて背割り堤に到着。七分咲きの桜の下での昼食。末光さん(四十二期)自家菜園での高菜の漬け物はおいしかったですね。午後の試飲もあるという事で皆さんお酒はほどほどに…。食事が終わった頃、ポツリとやっぱり雨は降りました。阿部幹事(五十四期)は雨男と

ゴルフ

第十三回
旭陵会ゴルフに参加して



熊野裕治
(45期)

大学を昭和四十九年に卒業し、建設会社 熊谷組に就職してから長いもので、早や三十三年で定年までのカウントダウンに入っております。

のささやきが…。いざ、サントリー山崎蒸溜所へ。幹事さん達の下見の結果で近道を行くことに、せせらぎの小石を飛び移って堤(木津川、宇治川、桂川三川合流地点)を通り抜け山崎蒸溜所へ到着。ここは、竹林が生い茂る豊かな自然に抱かれた地で、前述の三つの川が合流し、それぞれの水温の違いから、絶えず霧が湧き、平野と盆地に挟まれた独特の地形と湿潤な気候によりウイスキーづくりの理想郷と言われています。また、名水の里とも言われ、「離宮の水」と呼ばれる清らかな水が今もこんこんと湧き出ています。

茶道を究めたかの「千利休」もこの水でをたてたとわれ、山崎蒸溜所で生まれるモルト原酒もこの伏流水で仕込まれているそうです。工場内では、美人ガイドの中山さんの案内で施設を見学、試飲までもう少しです。なお、ウイスキーの語源はケルト民族の語でウスケから来たそうです。ビール・焼酎とウイスキーの違いやアルコールの沸点は78度で、ウイスキーは「二回蒸溜」「樽熟成」という独特の製造工程であること等ガイドの中山さんから親切丁寧に説明いただき全員納

旭陵会のゴルフには早い時期から参加してきておられます。現在は会社でも現場管理の方は引退し、営業でがんばっております。ゴルフのコンペは最近二年とも現在新大阪ゴルフクラブで開催されていますが、このコースは過去私の会社 熊谷組で施工したコースです。旭陵会のゴルフで利用するまでは、わが社で施工したにもかかわらず一回も利用したことありませんでした。去年の秋の大会(第十三回)十月二十一日も天候に恵まれた大会でした。メンバーは三名で福田先輩、木原さんといっしょに回らせていただきました。谷越えの名物

得。(心はずでに試飲のことばかり…。)そして、いざ試飲室へ。メインの大きなスクリーンには、サントリー山崎蒸溜所の宮本博義工場長(西高四十九期卒業生)の映像でお出迎え。工場長は彦島出身でサントリー入社後北米で世界最高の原酒づくりに研鑽を積み現在に至る。

竹内さん(四十四期)の挨拶に続き、いよいよ試飲タイム。テーブルにはモロゾフの板チョココレト、六甲バッテリーのチーズ薫製等ウイスキーにぴったりのつまみと工場長の計らいで山崎十二年がロックで、続いて白州十二年を試飲しました。そして特別に山崎十八年が出てくる頃にはみんなワイワイガヤガヤ…。さらに、帰りには山崎工場特製のロックグラスと北米産ホワイトオークのウイスキー樽(七十年程使用)から作られたコースターをお土産に頂き、皆ほろ酔い気分でお家路につきました。私は今回初めての参加でしたが、楽しい一日を過ごすことが出来ました。幹事の皆々様・山田さん(五十六期)ありがとうございました。さて、第十二回も雨が降るのでしようか…?

ホールの十二番も二打目で無事越えてボギーでホールアウトしました。インコースから回ったのですが、後半は福田先輩にもひっぱられて良いスコアであがりました。ベストグロス賞はとれませんでした。一方、一回はとってみたいと思っております。一方、当コンペは独特のあみだくじルールで、惜しくも四位になりましたが、前回までに運良く二回優勝させてもらい、甲斐先輩のみどりが丘病院で人間ドックの診察を受けました。また優勝を狙っていきます。(かなり運に左右されますが)是非皆さんも参加して親睦を深めましょう。

村上法律事務所

弁護士 村上 充 昭 (39期)
弁護士 村上 恵美子

事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目6番19号
北ビル2号館5階502号室
TEL 06(6365)7005 FAX 06(6365)0819

社会福祉法人

恩賜財団大阪府済生会吹田病院

(医療機能評価認定病院)

安野 洋 一 (33期)

〒564-0013 吹田市川園町1の2
TEL 06(6382)1521(代)

第10回 ハイキング

斑鳩三塔めぐり
2006年11月19日



JR法隆寺前にて行程説明



雨の中の行進



法輪寺由来説明



一杯どうや

乾杯!

うまい!

昼食状況(全景)

美味そう



参加者集合写真(28名)



法隆寺前にて解散(お疲れさま!)
その後、JR法隆寺駅まで最後の歩き...
法隆寺駅では西の空が明るくなり
すっかり天気も回復!!(やはり旭陵ハイキング)
参加いただいた皆様、お疲れは出ていませんか?
次からも、雨天決行します! 幹事

第11回 ハイキング

背割り堤の桜と
サントリー山崎工場
2007年4月1日



今日も1日御安全に!



参道をさっそうと歩く



本殿前にて集合写真(撮影:幹事)



一杯どう?

雨でなくて良かったね

弁当はなにかなあ

楽しい昼食風景



3本の川を望み、
国道478を行く



工場見学工程説明



隠れている鳥井です

私が佐治です

記念撮影(撮影:中山ガイド)
「ワンツーサントリー、はいポーズ」

第13回 ゴルフ大会



表彰式(優勝:米谷氏・35期)



第13回 参加者一同

万一ガスが漏れたとき、ガス漏れ検知警報器が発報しなかったら、大事故につながります。警報器の点検整備は当社にお任せください。

有限会社 西村電機サービス

取締役会長 西村 勲 (33期卒業)

〒599-8253 大阪府堺市深阪5-4-8

TEL(072)236-9508 FAX(072)230-2204

携帯 090-1447-8368

URL: <http://www.nds-mente.co.jp>

E-mail info@nds-mente.co.jp

ご家庭からコンビニートまで明日の安全を見つめています。

おいしさの感動をお伝えする!!

黒毛和牛専門店

(神戸ビーフステーキ、しゃぶしゃぶ、焼肉)

(株) 味 鉄

〈直営レストラン〉

・舞子 ・三宮 ・本山 ・西宮 等神戸一円10店舗

・(東京)赤坂店

日本一の神戸牛で、ゆっくりグルメの世界をお楽しみ下さい。

お中元、お歳暮には地方発送もいたします。お気軽にご相談下さい。

常務取締役

舞子店長

安田好幸 (43期)

舞子店 神戸市垂水区東舞子町2-21(JR舞子駅すぐ)

TEL 078-783-3520 アドレス <http://www.k-wind.ne.jp/ajitetsu/>

第4回
日 帰 り 旅 行
 2007年2月3日（土）
 於 佐津

カニと人情にふれた
 但馬日帰り旅行

川端重隆（四十四期）

昨年十一月に東京から転勤で八年ぶりに関西支部に戻ってきました。今回第四回の日帰り旅行に参加して、なつかしい先輩と幹事として頑張っている後輩と交流ができて大変感激しました。

さて、今回の報告ですが、十八名の方が参加され大阪を八時十二分の「北近畿一号」にて出発し、車内で早速宴会が始まり、ビールその他のお酒を飲みながら、城崎経由で山陰本線の佐津駅近くの民宿「源助」に行き、かにづくしの

料理とお酒をたっぷり堪能しました。先輩と後輩の方々と鍋をつつきながら下関の話で盛り上がり、楽しい時間を過ごせて、ちよっぴり幸せを感じました。

全員満足してその後、佐津駅で観光組と温泉組に分かれました。私は、観光組で下りの普通列車に乗り餘部駅に行きました。ホームには少し雪が残り、駅から小高い丘に登り、明治四十五年完成で高さ四十一メートル、長さ三百九メートルのトレススル式鉄橋では日本一の余部鉄橋を見ました。鉄橋を見るのは今回二回目ですが、駅で降りて見るのは初めてで、来春から新橋への架け替え工事で現在の鉄橋は今年しか見られないのでその姿を目に焼き付けました。

一方、城崎温泉の方は、名物の外湯七湯めぐりを楽しんでさうです。「手拭をさげて外湯に行く朝の旅の心と駒下駄の音」と与謝野鉄幹が詠んだ昔ながらの風情のある街で人情にあふれる出来事がありました。温泉に行った福田征三先輩が湯めぐりを終え、土産物店でお宅へのお土産を買い支払の段で財布がない事が判明。どこに忘れたのかと記憶をたどったところ、外湯七湯のうち駅から一番遠い温泉に忘れたことに気づきました。帰りの電車の発車時刻まで少ししかなく困り果てていたところ、その土産物店の女性店員が車に福田先輩を乗せてその温泉に直行、男湯のロッシーにも拘らず財布を取り出して来てくれたそのまま駅に

ユーターン、十七時一分発の「北近畿十八号」にぎりぎり間に合いました。山田幹事始め全員が心配していたのですが、間に合っただけでよかった（笑）

帰りの車中では、その話で盛り上がりお酒もおいしく飲みました。土産物店の女性が名も言わずに機敏な行動をされた事に対して人情溢れる温泉だと思いました。後日、福田先輩が土産物店へお礼の手紙を書いて出したところ早速返事があつて、良い旅行であつたと感謝したとお話を伺いました。

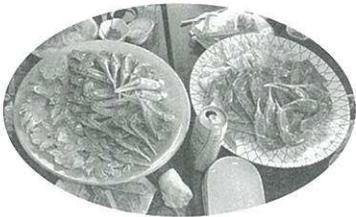
最後に、今回の旅行を企画していただいた幹事の方々、本当にありがとうございました。次回も是非参加したいと楽しみに待っています。



支部長挨拶



左が筆者



料理：かに刺し、かに鍋



集合写真（源助前にて）

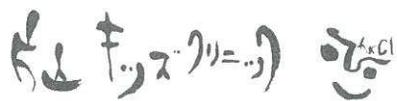


第一回旅行会も同じ佐津：大雪でした



左：筆者 右：34期福田先輩

三田、宝塚、尼崎にて流れ解散
 （参加者のみなさんお疲れさま！）
 今回は第1回目の旅行会で行った佐津源助でした。参加いただいた皆様、お疲れは出ていませんか？企画していただいたJR西日本・来島さんに感謝！次回もおいしい物を食べさせてください。



神戸市委託
 病児保育施設 プエリ

院長 片山 啓 (48期)

〒657-0846 兵庫県神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号
 TEL 078(802)5990 TEL 078(802)5996

保育施設ピピオ

NPO法人 キッズネット

理事長 片山 啓 (48期)

〒657-0846 兵庫県神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号
 TEL・FAX 078(802)5992

省力自動機 環境装置 設計製作

株式会社 木村製作所

http://www.kimura-kks.co.jp

代表取締役 木村 健三 (43期)

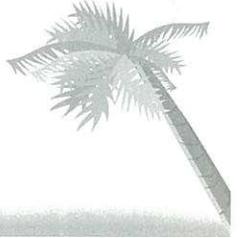
kimura@kimura-kks.co.jp

〒611-0041 宇治市槇島町吹前53番地

TEL 0774-21-4901(代)

FAX 0774-23-3033

下関西高便



山口県立下関西高等学校

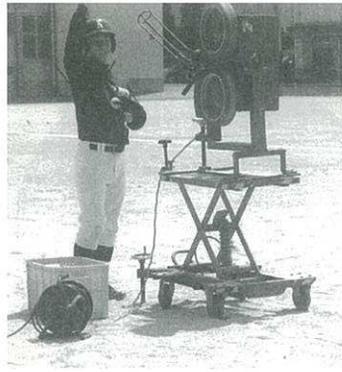
教頭 山根博司

旭陵関西支部同窓会の皆様方には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

同窓生の皆様方には、平素から本校教育の充実発展に、物心両面にわたり格別の御指導、御支援を頂いておりますことに対し、心からお礼申し上げます。

お蔭をもちまして本校教育も、学習と部活動の両面において、これまで順調に進展をいたしております。お礼を申し上げますとともに、これまでに皆様方から御支援を頂きましたものの活用の現状を御報告いたします。

平成十三年に御寄贈頂きましたピッチングマシンにつきましては、野球部の本校グラウンドにおいての普段の練習で、フリーバッティングやケースバッティング等の打撃練習時に活用しております。昨年新たに購入いたしましたもう1台のピッチングマシンと共に、部員の打撃力向上に向けて、文字通りフル回転をいたしております。



ピッチングマシン

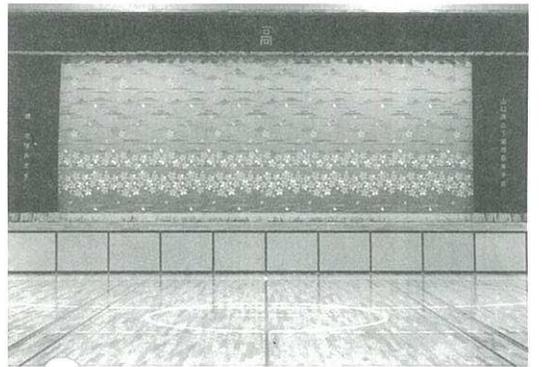
また、平成十七年四月に野球部後援会や同窓生の皆様方から贈呈いただきましたマイクロバスは、校内で「マイクロバス管理運営規定」を設け、野球部はもちろんサッカー部・剣道部等他の部活動の遠征や試合会場移動、また本校の教育活動等に幅広く活用しております。野球部においては、公式戦または他校との練習試合の会場への移動や、島根県遠くは熊本県への県外遠征に利用しており、他県の強豪校との試合を通しての練習の幅の広がりが、本校野球部の戦力向上につながっております。



マイクロバス

現在の野球部は部員数四十八人、勝率五割程度で、秋季県体と春季大会では二回戦に進出しましたが敗退しました。しかし、今年は部員数も増えて、「平成十六年春季大会ベスト4、夏の選手権大会県ベスト8」の成績を超える事を目標にして、いつかは甲子園への想いを全員が胸に抱き、日々活気に満ちた練習を行っています。昨年夏七月に完成しました新体育館に対しましては、旭陵同窓会の皆様方から綴帳と暗幕を御寄贈いただきました。全校生徒には八月二十八日の二期の始業式に先立ち、同窓会の前田日出三会長と藤本正三幹事長に御出席いただき、贈呈と披露を行いました。

この綴帳のデザインは桜の花。



綴帳

関東便り

スタンプ帳片手に

広い東京巡り

四十三期 門田 幸

東京に転勤となり、横浜住まいをはじめ一年三ヶ月になる。

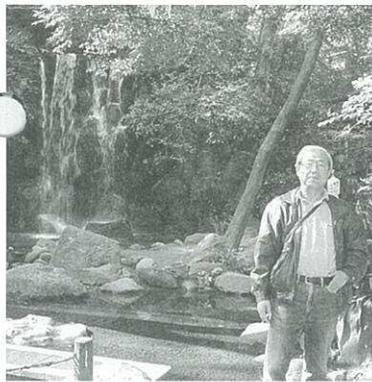
下関を離れ三十九年、神戸から外に住んだのは初めて。職場も関西から外に出たのは初めてである。どういふ訳か、水が合うというかわずか一年少して、住み慣れたという感じがする。

関東の印象は、とにかく広いということである。仕事柄、関西の時も、岡山から滋賀県、奈良まで回ってきたが、そう広いという感じはしなかった。関東の場合、東西南北が広く、鉄道は様々なコースがあり、一々二件の顧客訪問で半日、一日がつぶれてしまう。

「東京砂漠」と言う言葉があったが、土地そのものを言うのか、住民の心を言うのか。土地を言うなら、関西より遙かに東京の方が緑が多いように感じる。何しろ、都心のいたるところに大きな庭園があり、山の中のような森がある。関西では神社寺院にしか見られない大木、それをさらに上回る、銀杏、楠、関西では見られないケ

山・海を基調としています。桜の花は千畳ヶ原(忠霊塔)の桜の花を、山は風師山、海は関門海峡をイメージしたものです。昨年度の卒業式や今年度の入学式においてこの綴帳は保護者にも披露され、それぞれの式典において、厳粛な中にも華やかな雰囲気演出するものとなっております。

今後ともこれらのものを大切にするとともに十分に活用し、本校の教育活動をますます充実発展させていきたいと思えます。現況の御報告とお礼を申し上げますとともに、引き続き皆様方の御支援と御指導をよろしくお願い致します。



名主の滝公園にて

東京都内には都立の九名庭園がある。浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園、小石川後楽園、旧岩崎邸庭園、六義園、向島百花園、清澄庭園、旧古河庭園、殿ヶ谷戸庭園。多くは大名庭園であり、旧所有者は様々だが、とにかく広く立派な、都会のオアシスといった庭である。入園料も百五十円〜四百円と安く、京都の寺の拝観料に苦情を言いたくなる金額。

まさに驚きである。

庭園・公園だけではない。美術館、博物館も規模が大きく入場料が安い。

一年間女房も一緒だったので、とにかく回れるところは回ろうと、土・日・休日フルに使ってスタンプ帳を持ち、歩き回った。交通が便利で、交通費が安いことも助かった。

こちらに来てスタンプ帳も三冊目になった。名所、博物館・美術館、JR・私鉄・地下鉄の各駅、スタンプのある場所を見つけ、押すのも楽しい。JR山手線は、改札を出たみどりの窓口に、都営地下鉄は改札内事務所にスタンプをおいてある。ところが、改札がいくつもある新宿、東京駅でも一カ所にしかおいていない。東京駅のスタンプはいまだ手に入っていない。そのほか、都内あるいはその周辺の駅は、事務所にスタンプを置いてあり、要求しないと出してもらえない。もちろんおいていない駅もある。

私が通勤に使っている横浜市の鶴見駅は、東海道線(実際は京浜東北線)だが、鶴見線の始発駅でもある。改札を出て、階段を下り、少し奥まったところに駅事務所がある。そこを訪ね、スタンプを確認すると、事務員が奥からおもむろにたくさんスタンプが入った箱を持ってこられた。鶴見線の各駅(ほとんどが無人駅)と、東海道線鶴見駅のスタンプが揃っていた。すべてが新しい。恐らくあることも知らず、押す人がいないからだろう。

スタンプを押すことが目的ではない。あくまで、施設・名所を訪ね、景色を眺め、知識、見聞を深めることが目的である。スタンプはその過程で生じた趣味である。東京勤務も後半年の予定。単身の気楽さをフルに生かし、また回り切れない所を歩き回ろうと思っている。

阿武山こどもクリニック

院長 岡本良三 (46期)

〒569-1041大阪府高槻市奈佐原2丁目3-22
TEL072(690)3225 FAX072(690)3226

医療法人 なかじま整形外科

●リウマチ科 ●リハビリテーション科

院長 中嶋洋 (49期)

〒569-0814 高槻市富田町3丁目1番10号
☎072-690-3230 FAX072-690-3231



配属将校

昭和十四年十一月中ごろのことである。当時、私は山口県立下関中学校五年生であった。前日雨の中、教練の査閲も無事終り、「近年にない優秀な成績である」と講評も得て、私達はいささか誇らしげな気持ちで登校を急いでいた。通用門の土手下までくると石段の上に配属将校の後姿が見える。そして二人の級友がつかまつている。「むこうへ廻ろう」と私達は背中を丸めて走り抜けた。この配属将校は戦地帰りの若い中尉で、よく門の脇に立っていて、登校してくる生徒の服装を点検しては、難くせをつける。

「襟のホックがはずれている。ボタンは。ゲートルの巻き方がわるい」帽子の被り方から敬礼の仕方まで。その朝運悪くつかまつた二人は、朝礼が終わっても教室に戻ってこなかった。

暴力

私達の教室から通用門がよく見える。窓際の生徒が下をのぞくと二人は水溜りに正座させられている。配属将校は二階の私達に気付くと「ちらっ、ちらっ」と見上げるとは右手に持った小枝で二人の頬を叩く。隣の教室も窓を開けて騒ぎだした。一時間目が始まったが教室内は騒然としていて、なかなか授業が始められない。「先生、朝礼のまえからですよ。」

木の枝で何回殴られたか。ひど過ぎませんか」

「私達は昨日の査閲でも頑張ったのに。水溜りで匍匐前進したり、下着まで浸み通る者もいた。それなのにあんまりだ」と口々に、この時とばかり日頃の配属将校への憤懣をぶちまけた。ささいな事で「殴る蹴る」。学校一の暴力教官だ。教師は時々領きながらただ黙って聞いていた。

学級担任

一時間目も半ば過ぎた頃、教室に入ってきた二人を見て私達は一瞬声をのんだ。左頬が握り拳をくつつけたように腫れ上って、その上を無数の赤紫の線が走っている。二人は歯をくいしばって悔しさに堪えていた。「ゲートルの巻き方がわるい」と正座させられ、折り取った桜の小枝で数え切れない程叩かれたという。その間約一時間、膝から下はず濡れだ。生徒達は昂奮してもう授業どころではなかった。事態に驚いた学級担任は三時間目に話し合う事でひとまずその場をおさめた。二時間目は平静に授業を受ける。

当時学校に保健室はない。殴られたくらいで手当を受けるとか、まして病院に行くことなどしない。二人もそのまま皆と一緒に三時間目を待った。私達の学級は、軍人志望と理科系志望の生徒が多く集まっていた。そしてすでに何人か

が在学途中から陸士、海兵などに入った。いつ頃からか、これら生徒の壮行会を、朝礼時に全校生徒の前で行うことが例となつて、毎回のようにならんだ。学校一の元気の席にならんだ。学校一の元気の良い頭張るクラスだと自他ともに許すほどであった。

担任は二人の頬に手を当てて傷の大きさに驚いた。私達は朝からの経過を話しながら、日頃の配属将校の言動、それを許している学校側の姿勢に対して、うっ憤をぶちまけた。

老教官

その日六時間目に教練があつた。「もし配属将校がきたら」と待ち構えていたが、退役の老教官がきた。整列して待ち受けている生徒には静かな殺気さえ感じられたという。

二人の予想以上の傷に「すまないことをした。学校も対策を話し合っているから」と老教官が詫言。「私達は配属将校から直接謝罪してもらいたい。このままではあの教官の教練はもう受けたくない」「私達は兵隊ではない。暴力教官のいいなりにほならない」しばらく不満を言い合ったが、後は元氣一杯教練を行う。もちろんその中には頬を腫らした二人もいた。教練が終り装備を解きに銃器庫に入ったが、だれもでようとしなく。二人を囲んでだれ言うとなく

朝礼

翌朝いつもより早めに登校すると教室中が騒いでいる。見ると二人の顔は目も口も開けられないほど腫れだ。紫色に全体に拡がっている。その顔で平然と登校してきたのだ。

「この顔をみんなに見せてこい。こんな事で負けるな」と父親にいわれてきた、と言葉少なな語る。無言のうちに私達の態度は決つた。

校長

久しぶりに晴れ上った秋空、いささか昂つた気持ちを抑えながら朝礼にでる。整列した右端にいる二人を見た担任は凝視したまま息をのんだ。朝礼が終り「解散」となる直前、私は走りでて週番長（生徒）に「生徒を残すように」と連絡する。下級生が解散した後、五年生約一〇人全員が朝礼台の前までつめて座り込んだ。五年の担任など三、四人の先生達が残つたが、事態を察した担任もただ黙つて私達の方を見ているだけである。しばらく無言。不審そうに「どうした」と問いた。だす週番教師の前に、私は二人の生徒を立たせて「先生、これを見て下さい。事情は少しおわかりでしょうが、昨日朝、配属将校に叩かれた跡です」と口火を切った。二人の顔を見た先生達は、ただ茫然とつ立っているだけである。と今まで発言したこともないようなおとなしい生徒が、ふらふらと立上り、両手の拳を握りしめて体を震わせながら「こんなひどい仕打ちはない。あやまれ、あやまれ」と叫ぶようにいう。と堰を切つたように抗議が始まった。

「私達は一昨日の査閲でも頑張った。配属将校も鼻が高いと悦んでいた。それが、ただゲートルの端が少しずれているというだけで殴る蹴る。水溜りに正座させたまま一時間近くも、折った桜の枝で叩く。その桜も私達が植えた記念の桜だ。これはもう教育ではない。暴力だ」他のクラスの生徒も次々と立っては、今までのつもりもった憤懣を訴えた。

五年生全員が教室に入らないのを心配して、教頭がでてきた。生徒は整然と座り込んだまま、頭を上げて正面を凝視して動かない。「私達は配属将校が皆の前で謝罪するまでここを動きません。すぐ呼んで下さい」と訴え続ける。

一時間目終了のベルが鳴る。教頭でもちがあかないと考えた私達は、校長を呼んでもらうように要請する。

外出先から急いで帰ってきた校長が姿をみせると、私は二人を校長の前に連れて行き、今までのいきさつを手短かに説明した。そして「配属将校がこの場にきて、皆の前で謝罪すること」を要求した。もう騒ぎ立てる者はいない。

二人の顔を見ながら説明を聞き終つた校長は、「よしわかった。今配属将校は他の学校に行つていく。（当時二、三校をかけ持ちしていた）連絡してここにきてもらうように」といい残して教頭と立ち去つた。私達は学級担任に見守られる形で、静かに待った。

(9面に続く)

からだにいいこと始めたい人へ!
梅田の中心「大阪駅前第一ビル」にある
日本最大級(155坪)の広～い教室で、のびのび楽しく
さあ、ごいっしょにYOGAしましょ!

お問い合わせは
Japan YOGA college
ジャパン・ヨガ・カレッジ大阪本校
〒530-0001
大阪市北区梅田1丁目3番1-800 大阪駅前第一ビル8F
TEL.06-6345-3811(代) FAX.06-6345-3816
江坂校:吹田市江坂町2丁目7-25 ビスタ江坂8F TEL.06-6192-3640
URL:http://www.j-yoga.jp E-mail:info@j-yoga.jp

会長 山内英雄 (40期生)

J-YOGA式マッサージ&整体

山内英雄

*肩こり・五十肩・腰痛などの改善
*前屈・正座・開脚などが苦手な方

身体を整える「パーソナル・ヨガ」

パーソナル・ヨガ予約専用
TEL.06-6345-3817

Japan YOGA college

- J-YOGA の普及活動
- ヨガ教室の運営事業
- ヨガ教室のFC事業
- ヨガ指導者の養成教育事業
- ヨガ講師の派遣事業

J-YOGA Future Club

- 海外ボランティア活動支援事業
- 小学校建設支援 (ラオス・カンボジア)
- 職業訓練施設建設支援 (ラオス)
- 識字教育設備支援 (カンボジア)
- パンラン大学日本語講座奨学金支給 (ベトナム)
- 障害児教育センター建設支援 (ベトナム)
- 現地スタッフ活動資金支援 (ベトナム)

旭陵同窓会と私



米田 康江 (32期)

早いもので私が関西同窓会に出席してから今年で十年になります。同期会には、下関・関西・

私が初めて出席したのは、当時の支部長の空谷さんが亡き兄の友人であつたし、副支部長の瀬口さんが同期だったので、話し相手はいるのだからという気持ちでした。その時は兄の同期も五、六人いたし同じテーブルの人たちと話をしていると、中学校の後輩だったり、子供時代、家が近所だったり、またその人達のつながりで彼等の友人と話をしたりで退屈はしません。という日は、その日は七時からフ

後まで楽しみました。矢張り総会だけでは人とのつながりを深めることは無理。

それからハイキングも交流を深めるには楽しい行事です。夫婦、親子、孫連れ、道中は前後したりで色々な人と話し、景色を楽しんだり、温泉のある所では、ゆつたりと湯につかって、その日の疲れをとる等、裸のつきあひもあつて楽しい思い出です。雨にもよく降りました。途中すごい風と、ど

サントリ

山崎蒸溜所の紹介



宮本 博義 (49期)

ウイスキーのふるさと「山崎」からお便りいたします。若い世代にはなじみが薄くなりましたが、テレビが急速に普及し始めた昭和

三十年代にTVコマーシャルで山崎蒸溜所の貯蔵庫の扉が開いて中からウイスキー原酒の樽が運び出されてくる場面覚えておられる方もいるのではないのでしょうか。確か提供番組は洋物のサンセット七七かローハイドだったような気がします。その時からハイカラ(現代では死語?)なイメージをキープしており、JR京都線や新幹線から今も昔と同じしつとりとした佇まいを見ることが出来ます。創始者鳥井信治郎が山崎の地に一九二三年に蒸溜所を建設して以来八〇余年、一貫して断じて舶来を要さずの信念のもと、世界最高品質のジャパニーズウイスキー製造にたゆまなくまい進してきております。私は七八年四月の入社から一貫してウイスキー製造に関わる仕事をしております。最初の配属先がここ山崎。その後海外赴任が

しゃ降りにあつた時、温泉に入つて、またぬれた服を着て帰つたことも忘れられません。次回はどこに連れて行ってくれるのかしらと期待している次第。

このように若い人達と接していると自分の年齢も忘れてしまう程です。私としては出来るだけこういう会合に参加して、気分だけでも若くありたいと思つています。これもすべて幹事さん達の熱心な努力あつての事と感謝しています。

長くありましたが3年前に工場長として着任した時は感慨深いのがありました。入社当時、山崎の蒸留したての原酒(無色透明のニユーポット)や熟成原酒を官能検査(所謂、利き酒)したのでですが本場スコッチに比べてまだパワー不足を感じたのを覚えております。その後八七、八八年二年間生産を止めて断行した生産設備の大規模な改造工事に関わり、また使用する

抗議

「戦時下の中学生 8面続き」

二時間目も半ば過ぎた頃、校長に連れられて配属将校がやつと来た。校長に促されて座り込んでいる生徒の前に立つと、さつと見廻して「煮て食うなり焼いて食うなり好きなようにしろ。俺は現役軍人だ。軍の命令で動いているのだ。他人の指図は受けん。きさま達は何といおうと俺には恐ろしいものはない」無言のうちにも激怒した全生徒の視線が、いつせいにこの教官を射すくめた。教師達の苦渋にみちた顔、困惑の表情。担任は配属将校をにらみつける厳しい目つきをしている。

私は静かに立上がり、二人を教官の前に立たせて「この顔を見て下さい。昨日教官から叩かれた跡です。水溜りに正

る樽の品質や多様性向上のため世界各地を奔走したりして原酒品質の大幅なアップに努力して来ました。その結果、国際的なウイスキー品評会(I.S.C. International Spirits Challenge)でシングルモルト「山崎十二年」が二〇〇三年に栄えある金賞受賞に至ったことは技術者として大きな喜びです。その時はスコットランド駐在でしたが一人ホテルで「山崎十二年」を片手に心の中で祝杯したので覚えております。更に二〇〇五年には半年間工場を止めて大幅な蒸留釜更新もしました。十二年後の二〇一八年には必ずやスーパー山崎十二年が誕生し世界の品評会を軒並み席捲することでしょう。退職後ですが今からそのウイスキーを味わうのが楽しみです。山崎蒸溜所は年末年始を除いて休日なしでお客様の訪問を受け付けております。お気軽に 予約なしでお越しください。心からお待ちしております。

私達の追及に答えようともせず、虚勢を張つた傲慢な態度でつ立つている配属将校に、怒りを抑えながらも、生徒達の言動は次第に荒らつてばくなつてくる。と、

「いいたいことはそれだけか。きさま達は命がけで戦っている戦地の兵隊のことを知っているのか。戦地ではこんなものじゃないぞ。国民皆兵だ。きさま達は卒業したら皆兵隊にとられるんだ。生意気なことをいうな」

三時間目も終りに近くなつた頃、それまで黙って配属将校と生徒達の応酬を見守っていた校長は、「教官は午後には連隊に帰らなければならぬ。これまでにして後は校長にまかせてもらいたい。解散して授業を受けるようにしてほしい」と中を割つて入るようになり。

座させたまま立ち上る事もできない無抵抗な二人を、木の枝で容赦なく叩く。一時間近くも。これは血の通つた人間のやることではない。この場で二人に謝つて下さい」と、ほろんどいつせいに「あやまれ」と全員が叫んだ。 「煮て食うなり焼いて食うなり好きなようにしろとは教官の言葉とは思えない。ごろつきと同じだ。私達は教育者に話をしているのです。もっと筋の通つた説明をして下さい」

私達は不満ながらも、ひとまず解散して教室に入った。

翌朝、登校してきた二人は腫れ上つた顔に微笑を浮かべて「昨日の夜謝りにきたよ。校長に連れられて。俺の親父にがっちりいわれて、畳に両手をついて謝つた」

みんなの前で謝罪させられなかつた残念な気持ちではなかつたが、これ以上追及はしなかつた。この事件の主謀者とみられた私を始め、四、五人の生徒にも、なんの処分も無かつた。二人の顔の傷や腫れは、なかなか治らなかつたが、毎日元気に登校してきた。その後卒業まで三カ月半、五年生の教練の時間には、配属将校の代りに退役の老教官がきた。

「黙っているのは私達の要求を認めるといふことですか。どうなんですか。何もいえないのですか」 「我々を虫けらみたいに暴力で教育するなんて、最低だ。こんな配属将校にはもう習いたくない。ごめん」

謝罪

私達は不満ながらも、ひとまず解散して教室に入った。



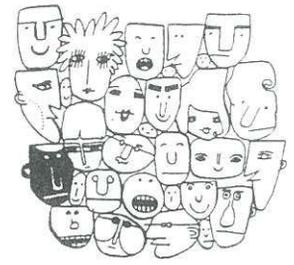
旭陵同窓会の皆様 よろしくお願いたします

アルル

深川 れいこ

〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目3-33 北新地萬年ビル2階5 (堂島上通り・国際モータープール隣り) TEL.06-6344-2468

旭陵同窓会の皆さま ポケットです よろしくお願いたします



PIANO BAR Pocket

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-11-19(北新地スタービル9F)



PIANO BAR Pocket 北新地スタービル9F TEL.(06)6345-3996

「賽の河原」

関西支部副支部長

村上充昭（三十九期）

一、三途の河原を賽の河原という。親より先に亡くなった子供達が父母供養のために石を積み上げ、塔を造ろうとすると、鬼が来てそれを崩す。子供達が、また造るとまた鬼が崩しに来る。その子供達を、地藏菩薩が救いに来る。

賽の河原の石積みは、無駄な努力をすることの例えになっている。人は、同じ失敗ばかりして、無駄な努力をする。人生の半分は賽の河原の石積みである。

三途の川は冥土に行く途中、渡らなければならぬ川である。三途の川の渡り方があるから、三途の川といわれる。橋で渡れる者・浅瀬を渡れる者・深い急流を渡らなければならぬ者、どこを渡れるかは、生前の業によって決まる。

三途の川を渡るときもカネがいる。三途の川の渡し賃である。業だけでは、良い箇所を渡ってあの世に行けない。

阿弥陀の光もカネ次第。地獄の沙汰もカネ次第。この世があれば、あの世もある。この世もカネが万能なら、あの世の、地獄、極楽もカネ次第ということになる。

二、権利があっても、それを実現するのは難しい。人は、権利があれば、それは当然実現されるものと思いきや、理屈が立てば、相手は任意に払ってくれるものと信じて疑わない。権利を実現することは、難しいこと、それが、現実に実現されることとは別問題である。これが分からないと、不満だらけの人生となる。

現実の社会では、権利はほとんど実現されないし、正しいことが通る事もほとんどない。正しい者はほとんど負けている。世の中で強いのは誰か。いわゆるワルと言われている連中が強い。なぜワルが強く、正しい者が弱いのか。ワルは、法律はもちろん、道徳、倫理を全く守らないから強い。正しい人は、法律を守り、道徳、倫理に適った行動しかしないから弱い。

ワルは規制事実を作り上げ、不正な利益を得るが、正しい人は常に後手にまわり、泣き寝入りや余儀なくされる。ワルに勝つには、ワル以上の力を持つ必要がある。考えてみればひどい話である。

三、ひどい世の中であるが、そのひどい世の中でも、面白いことがあるかも知れないと、回りをみる。面白くことは見あたらない。考えてみれば、世の中に、面白い事があるはずがない。

人生を面白くするか、面白くないまま終わらせるかは、その人の心がけということになる。「面白くこともなき世を面白く、住みなすものは心なりけり」(高杉晋作・野村望東尼)

面白いか、面白くないかは、人の心で決まるといえる。面白いかどうかに客観的な基準はない。

面白くと思えば、面白くなるのが、世の中。面白くないと思えば面白くなるのが、世の中。社会は、「ぬりえ」のようである。面白く塗る、面白くないように塗るかは、その人の心次第である。

その意味では、社会は色のついていない絵画のようなものである。四、だめだと分かっている、人は一縷の望みを持って努力する。人には、努力する習性がある。

無駄と分かっても努力する。世間一般では努力家は高い評価を受ける。努力のなかに、努力しているという事を自慢する人がいる。努力している事が、目立つことは、あまり成果を上げていないということでもある。

人は努力するから偉いわけではなく、無駄な努力にもへこたれないから偉い。努力は目立ってはいけぬ。努力は、密かにするものが正しい仕方である。

努力はほとんど賽の河原の石積みである。賽の河原とは、実のところこの世の中のことと思えばよい。

賽の河原は、この世に地獄として横たわる世間と思えばよい。「賽の河原には背広を着た、赤鬼、青鬼がうようよとして、努力している人間の足を引っ張り、努力の成果を取り上げる。努力していることをあからさまに見せてはならない。」

旭陵同窓会関西支部役員

Table with 5 columns: 氏名, 期, 電話番号, 勤務先. Lists members of the旭陵同窓会関西支部 including 支部長 安野 洋一, 副支部長 福田 猛彦, etc.

関西支部事務局 〒663-8871 西宮市甲子園1番町4-1-215 杉 顕紹 TEL・FAX 0798-47-9148 e-mail:sugi@pski.mm-m.ne.jp

関西支部行事報告

- ハイキング 第一回 二〇〇二年 四月 七日 飛鳥・明日香 参加者25名
第二回 二〇〇二年十一月十七日 宇治天ヶ瀬 参加者33名
第三回 二〇〇三年 四月 六日 奈良当麻の里 参加者24名
第四回 二〇〇三年十月二十六日 京都山崎 参加者33名
第五回 二〇〇四年 四月 四日 山辺の道 参加者32名
第六回 二〇〇四年十一月十四日 比叡山坂本 参加者31名
第七回 二〇〇五年 四月 三日 生駒 参加者22名
第八回 二〇〇五年十一月二十日 伏見散策 参加者33名
第九回 二〇〇六年 四月 二日 葛城古道散策 参加者25名
第十回 二〇〇六年十一月十九日 斑鳩三塔巡り 参加者28名
第十一回 二〇〇七年 四月 一日 背割り桜サントリー 参加者33名
日帰り旅行会 第一回 二〇〇四年 二月 七日 城崎方面
第二回 二〇〇四年十二月 四日 鞆の浦
第三回 二〇〇六年 二月 四日 舞鶴
第四回 二〇〇七年 二月 三日 城崎 参加者18名
ゴルフ 第十三回 二〇〇六年十月二十一日 参加者17名
第十四回 二〇〇七年 四月十四日 参加者13名
優勝 米谷 友則(三十五期)
優勝 福田 猛彦(三十五期)

編集後記

◇本誌十二号をやつと発行することが出来ました。東京での編集は今回で二度目ですが、十一号の場合、二月の日帰り旅行にも出席、事情が分かった上での編集でしたが、今回は総会、ハイキング、全く出席しない状況での編集です。印刷所とのやりとりを含め、関西を離れての編集には限界があります。

◇岡山研一氏の文章には、ホームページで、偶然に出会いました。原題は「配属将校に抗議する中学生」。その時はそのままでしたが、今年、本誌の原稿を集めているときに思い出し、ホームページを出している、ご子息岡山洋一氏経由でご本人の了承をいただき掲載することになりました。岡山氏は昭和十五年三月に下関中学校を卒業。昭和十九年には梅光女学院勤務、その後招集。終戦後一週間くらいで戦後処理のため広島へ。昭和二十六年から北見北斗高校等を経て、芽室高校で退職されています。

◇昨年の総会は、在学生も含め若い会員が多く集まりました。今年も特別演奏に五十九期大石学氏のジャズピアノを予定しています。その関係で、会場も初めて大阪メッセホールで行います。大勢の会員が集まっていたことを期待します。

◇十二号には同窓会の過去の行事録を掲載しました。総会は十四回目、ハイキングは十一回、出席者も三十人以上が定着しています。東京では総会の他には全体の行事は行われておらず、関西の特典だと思えます。今後は是非多くの同窓生が出席いただきたいと思えます。

◇本号は後輩幹事の皆様に助けられ発行することが出来ました。ありがとうございます。(門田)